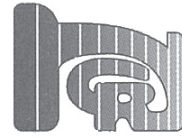


# フィリア・レター

～真の友人からの手紙～



発行：中部ろうさい病院

〒455-8530

名古屋市港区港明 1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533

<http://www.chubuh.johas.go.jp/>



## われら、中部ろうさい病院感染防止隊！ その名もICIT！！

薬剤部 平松 久典

ICITは医師・看護師・臨床検査技師・薬剤師からなる感染制御チームです。院内で起こる様々な感染から患者様や職員を守るために、それぞれの専門性を活かしチーム一丸となって活動しています。定期的に院内をラウンドし、環境のチェックや職員を指導するなど、感染対策がすべての場所で正しく行われるようにすることや院内感染の早期発見し対応すること、抗菌薬使用状況を確認し適切な使用を促すことが私たちの役割です。

薬剤師として特に力を入れているのは抗菌薬の適正使用です。

昨今、抗菌薬が効かない薬剤耐性菌が世界中で増えています。このまま対策をしない場合、薬剤耐性菌に起因する死亡者数は2050年には世界で1000万人が想定され、がんによる死亡者数を超えるとした報告があります。そうならないために抗菌薬の適正使用を推進し、一人一人が薬剤耐性菌をつくらないように心がけることが大切です。明日からできる薬剤耐性菌対策を実践して頂けたら幸いです。

・誰でもできる薬剤耐性菌対策

①風邪の時に抗菌薬を欲しがらない

風邪をひいた時、医師に「抗生剤を出してください」と言ったことはありませんか？しかし、風邪の原因は8から9割がウイルスであり抗菌薬は効果がありません。不必要な抗菌薬の使用により副作用が出ることもあります。

②抗菌薬は医師の指示通り最後まで服用する

「症状がよくなったから」と服用を途中でやめたことや、「この方が効くから」と量や回数を自己調整したことはないでしょうか？抗菌薬は、『処方された量・回数・期間』で正しく飲まないと感染症が治らないだけでなく、薬剤耐性菌が生まれてしまいます。

新型コロナウイルス感染症の拡大というこれまで経験したことのない事態に直面し、不安を抱えておられる方も多いと思います。当院では医療資源の確保に努めるなど新型コロナ感染対策を強化し、院内感染防止に職員一丸となって取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染症との戦いは長期に渡ることも予想され、日々、ご不便を感じておられるとは思いますが、希望はあります。コロナ禍はいつか終わります。前に進めば終わりに近づきます。皆様と力を合わせて共に困難を乗り越えていきたいと思ひます。

今月号のお知らせ

- ①われら、中部ろうさい病院感染防止隊！  
その名もICIT!! .....薬剤部 平松 久典
- ②紙面健康セミナー 月経困難症について  
.....産婦人科部長 柴田 大二郎
- ③紙面健康セミナー 50歳を過ぎたら前立腺癌検診（PSA検査）を受けましょう

- .....泌尿器科部長 高木 康治
- ④病院の災害訓練  
防火・災害対策委員会委員長 外科 橋本 瑞生  
病院のお知らせ  
病院の理念・当院の基本方針、編集後記

市民



紙面

産婦人科・泌尿器科 コラボ編

## 健康セミナー

## 月経困難症について

産婦人科部長 柴田 大二郎



月経中にお腹の痛み、腰痛、疲労、イライラ、抑うつ等の症状が出る状態を月経困難症といいます。わが国では、若年女性の70～80%に月経困難症状があり、さらに、その3分の1以上に薬物などの医学的介入が必要とされています。

月経困難症には、機能的と器質性の2種類があります。機能的は特に原因となる病気はなく、月経中に子宮から産生される痛み物質（プロスタグランジン）により痛みを強く感じます。器質性は子宮筋腫、子宮内膜症、子宮腺筋症などの病気が原因となり、痛みの症状が現れます。

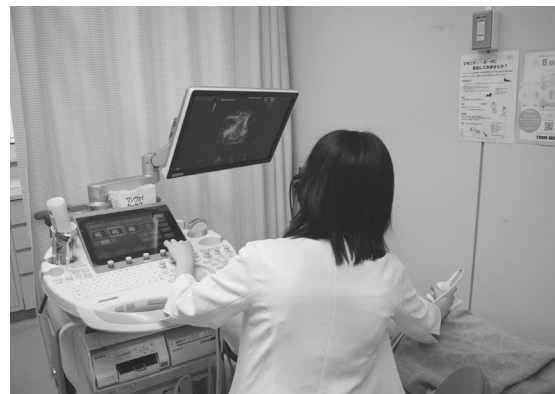


治療法は主に薬物療法が使われ、症状や妊娠の希望などを考慮して選択されます。種類は鎮痛薬（痛みの原因であるプロスタグランジンを抑える）、漢方薬（継続的な服用で症状改善が期待される）、低用量卵胞ホルモン・黄体ホルモン配合剤（子宮内膜の増殖、子宮の収縮運動を抑えることで月経の症状を

軽くする）、子宮内黄体ホルモン放出システム（子宮内膜の増殖を抑え、月経量を減少させるとともに月経痛を軽くする）等があります。



月経困難症は日常生活に支障をきたすだけでなく、将来、疾患の増悪や妊孕性低下にもつながることがわかっています。したがって、月経困難症はその場さえ乗り切ればよい疾患ではなく、生涯にわたるヘルスケアを見据え、社会経済活動や妊娠へのサポートも考慮しながら、女性のニーズにあったきめこまかな指導をしていくべききわめて重要な疾患といえます。月経困難症でお困りの方は一度産婦人科に受診し、医師の診察を受けて下さい。



市民



産婦人科・泌尿器科 コラボ編

紙面

健康セミナー



## 50歳を過ぎたら前立腺癌検診 (PSA検査)を受けましょう

泌尿器科部長 高木 康治

前立腺癌はこれまでわが国ではあまりなじみがありませんでしたが、前立腺癌検診(PSA検査)が普及し手術支援ロボットが前立腺癌の手術に導入され最近注目を集めています。古くはノーベル賞を受賞された川端康成氏、湯川秀樹博士、最近では森喜朗元総理大臣、演出家の宮本亜門氏ら数多くの著名人が前立腺癌を患ったことを公表しました。

前立腺は男性にしかない臓器で精液の一部を産生しています。膀胱の直下の骨盤の一番奥深いところに位置しています。前立腺癌の症状には排尿困難、血尿、腰痛等がありますが他の癌と同様で症状が出現してからでは治療の手段が限られ手遅れになることが多いです。手遅れにならないためには前立腺癌検診(PSA検査)を受け早期に発見し早期治療を行うことが大切です。血中の前立腺特異抗原(PSA)を測定するという採血で行える簡便

な検査です。このPSA検査で異常を指摘された場合泌尿器科専門医によるさらなる精査が必要になります。

話は遡りますが1940年代にヒギンス博士は前立腺癌の治療に女性ホルモンが有効であることを発見しノーベル賞を受賞しました。現在でもホルモンの治療は前立腺癌に使用されています。このため前立腺癌の治療には手術療法、放射線療法、ホルモン療法の三本の柱があり他の癌と比較すると取り組みやすい癌と言えます。事実前立腺癌を患っても長生きできる人が多いのです。

まずは診断することが重要ですので50歳を過ぎたら前立腺癌検診を受けられることをお勧めします。なお当科では今年の7月から腹腔鏡下小切開手術を導入し、前立腺癌ではパンツに隠れる程度の目立たない傷で手術可能です。

### 前立腺癌の症状





# 病院の災害訓練

防火・災害対策委員会委員長 外科 橋本 瑞生

病院の災害訓練では被災した大勢の傷病者を受け入れる訓練が行われます。素早く重症度を判断してトリアージし、緊急性の高い患者さんから必要な医療処置を行い、できるだけ多くの人を救命できることを目指します。

当院も毎年、特殊メイクをした患者役の看護学生さんたち、トリアージ・救急搬送の役を担う救急隊の協力も得て、大勢の職員が参加して実戦さながらの訓練を行ってきました。災害対策本部内では当院DMAT(災害派遣医療チーム) 隊員の指導のもと、EMIS(広域災害救急医療情報システム)、衛星電話を使って行政や他の医療機関と連携を取り、広域搬送や支援を得る訓練も行っています。

近年、東日本大震災、熊本地震、台風や豪雨と大規模自然災害が次々と発生しています。その中で病院被災の事例が出てきました。診療設備の損壊、ライフラインの途絶、交通遮断による病院孤立化が起こり、診療機能の停止だけでなく、入院患者さんや職員の生存維

持が課題となりました。

東南海地震・津波の発生が危惧されている現在、当院は既に病院被災への対策も開始しています。建物は耐震・免震構造で大きな被害は生じないと想定されます。上下水、電気、必須医薬品、非常食などは備蓄・バックアップの設備や体制を整えており、当面は問題のない状態です。しかしこれらの設備が損傷したり、外部供給・支援が遅くなるかもしれません。そのような状況にも対応できるように、昨年は

- ・限られた数の緊急水道蛇口で病棟運営、患者看護をどう行うか
- ・汚水設備使用不能時の簡易トイレ設置、周知、汚物収集の仕方
- ・各階毎での炊き出し・配膳

などを検討し訓練で実際に検証しました。

多数傷病者受け入れと病院被災、両方の面から災害訓練を行うことが必要になってきたと思います。私たち防火・災害対策委員会は災害から病院、患者さん、職員を守るために活動を続けていきます。

## 病院からのお知らせ

### ★サイネージの設置について★

令和2年7月より、主として患者さんへの地域医療情報の公開ツールとして「サイネージ」を正面玄関中央(ホスピタルラウンジ横)に設置いたしました。

サイネージとはデジタル案内板のことで、主に院内フロアマップ、病院周辺地図をはじめ、天気予報やニュースなどのリアルタイム情報をご覧いただける他、タッチパネル上で当院の連携医療機関の住所・診療科目などを検索することもできます。

ご来院の際は、是非ご覧ください。

## 当院の理念

納得、安心、そして未来へ

## 当院の基本方針

- ・医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

## ～ 編集後記 ～

今年度はコロナ渦で市民健康セミナーが中止となりましたが、今号では「紙面健康セミナー」と題したコラムを掲載しております。産婦人科部長及び泌尿器科部長から、病気や治療法の紹介をさせていただきました。

また、感染制御チームの観点から、抗菌薬の適正使用について、紹介させていただいております。(K・M)